

脳梗塞について

服部・えびすさまクリニック

服部 公彦 先生

一般の人のイメージでは、脳梗塞はしびれる、頭痛を伴うといった状態が多いようです。ここでしびれるとはビリビリしびれると動かない状態の二つの意味があります。頭痛を伴う脳梗塞は頻度としては5%未満です。どんな症状があるかを簡単にお話します。動かなくなってしまうのは運動神経系の障がいです。動かなくなる状態には通常は片方の上肢、下肢の脱力があり、脱力も手足が重くなったという状態から、全く動かないまでの違いがあります。感覚系では運動と感覚が同時に障がいを受けていることが多く、感覚鈍麻または脱失です。つまりしびれるではなく、感覚が分かりにくくなります。顔面を含み半身がビリビリしびれる場合は視床梗塞があります。後頭葉の梗塞では右目も左目も半分しか見えなくなります。手を動かそうとするとふらふらしてしまう、歩行もふらついてしまうなどの症状は小脳系障害などに分けられます。脳幹梗塞は物が二つに見える、ろれつが回らない、目が回るなどの症状を伴います。このような症状が生じた場合は脳血管障害の可能性が高いので医療機関で受診してください。

治療については現在3時間以内に治療を開始できれば血栓を溶かす治療があります。しかし、実際は2時間以内でないとも検査の時間もあるので治療ができません。症状が認められた場合は、起床時でも日中でも速やかに医療機関で受診してください。もし、3時間以内に治療ができない場合は、血液をサラサラにする点滴による治療を開始します。また、当日または2日目からリハビリテーションを開始して、寝たきりの予防をしています。症状が軽いからといって軽視せずに、いずれも速やかに医療機関で受診してください。

最後に、予防に勝る治療はありません。塩分を控えて食事をコントロールし、まず血圧を正常にした上で「80歳すぎても2足歩行」ができるようにしましょう。